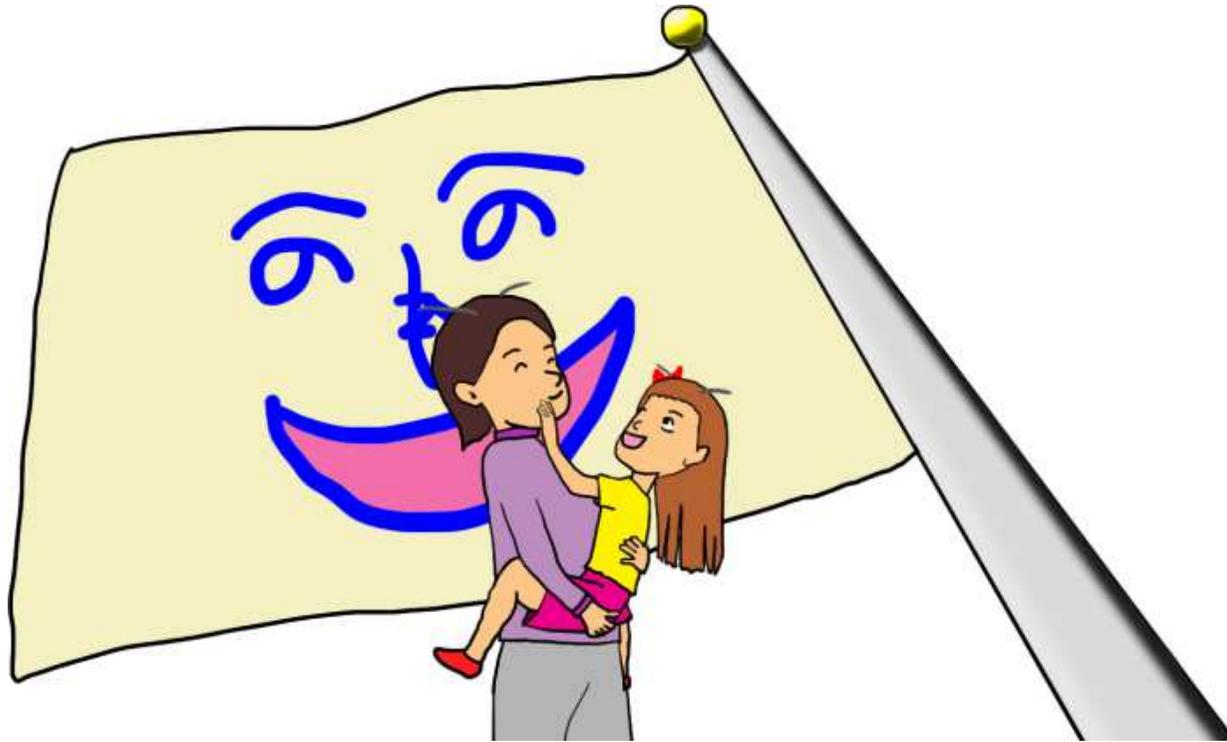
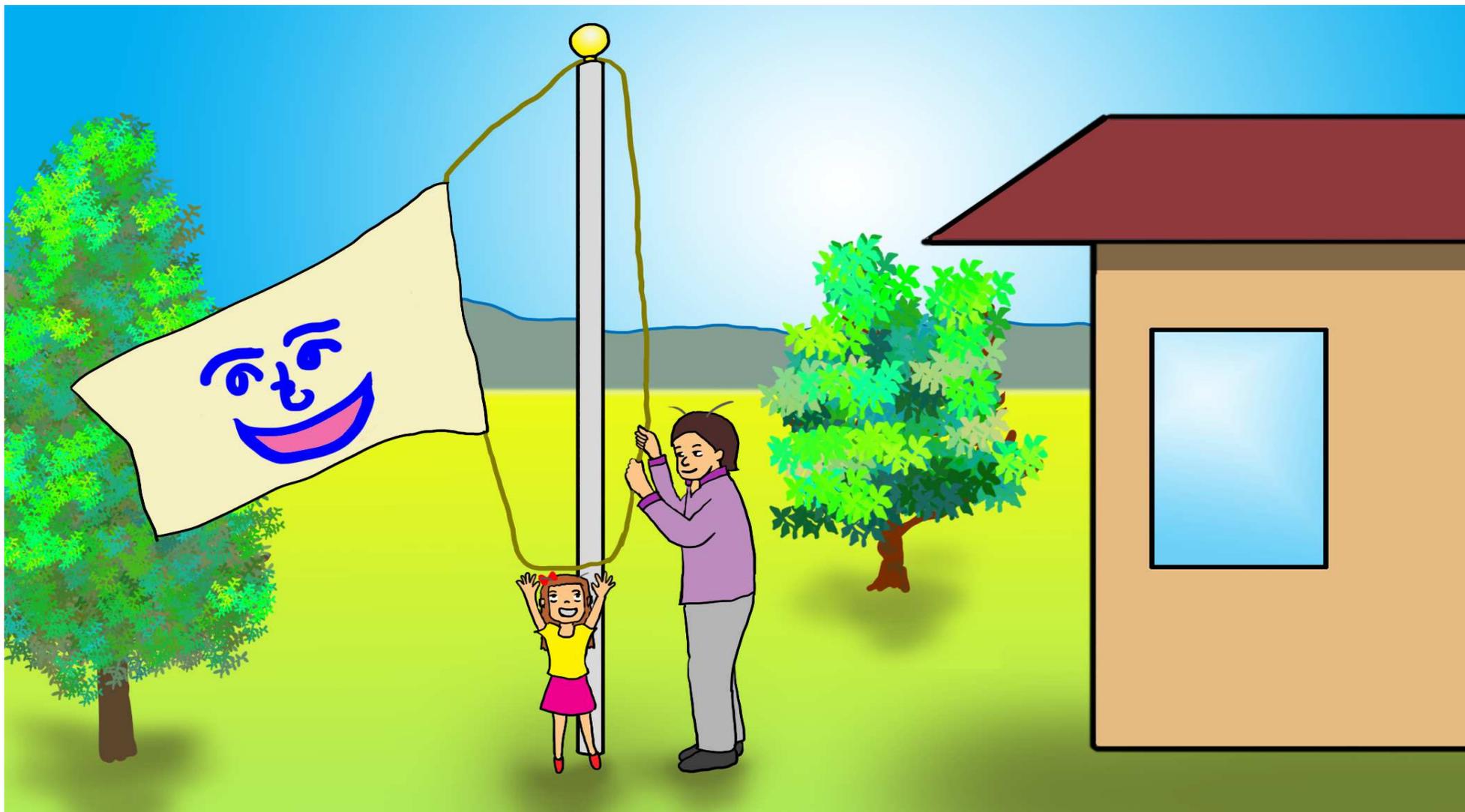


# 恐怖は愛を消す

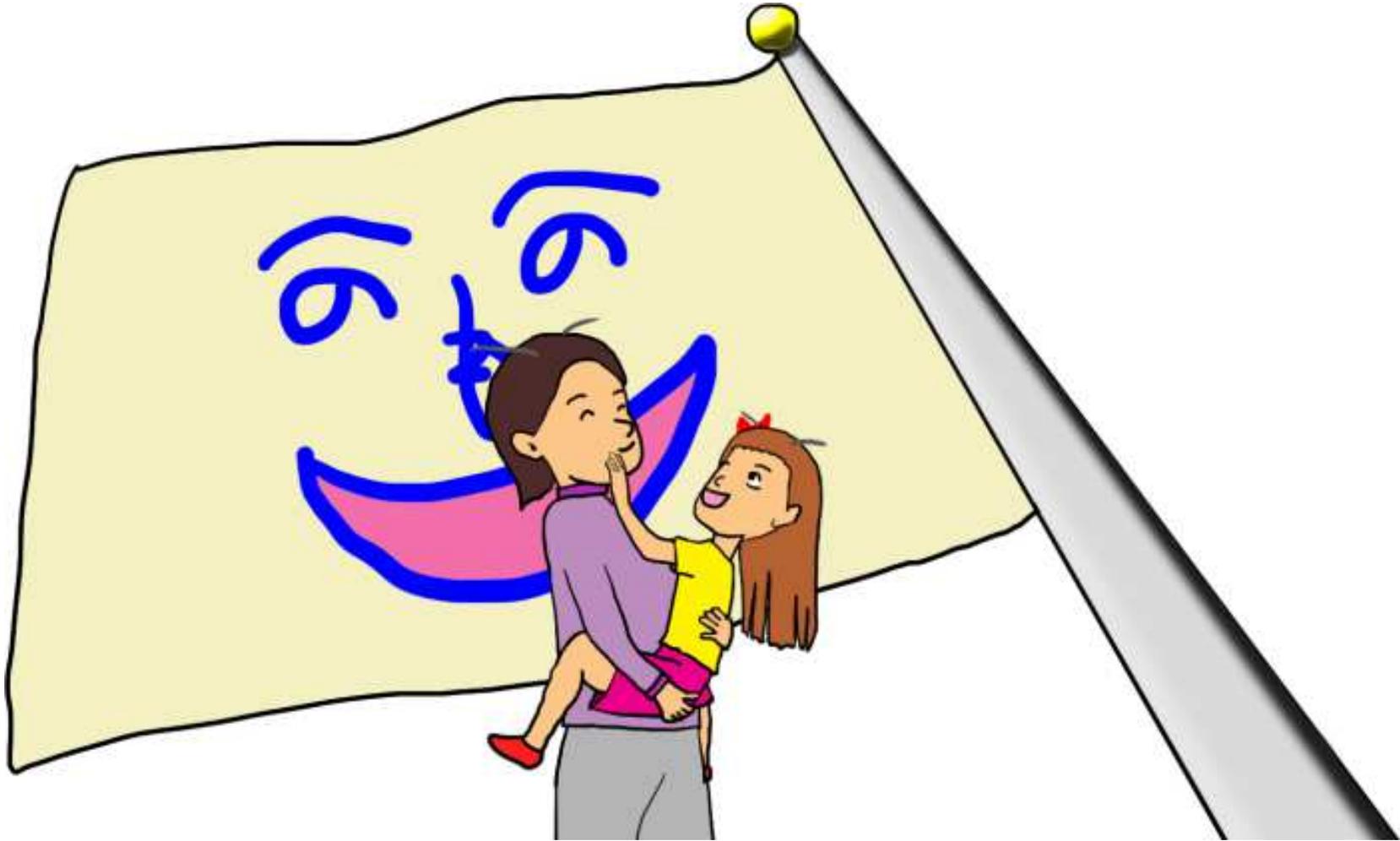


東郷 潤

遠い宇宙のある星に、祝祭日には必ず国旗を掲揚する男性がいました。



国旗を掲揚するのは、彼が自分の国を愛し、その国旗も大好きだったからです。他に理由はありません。

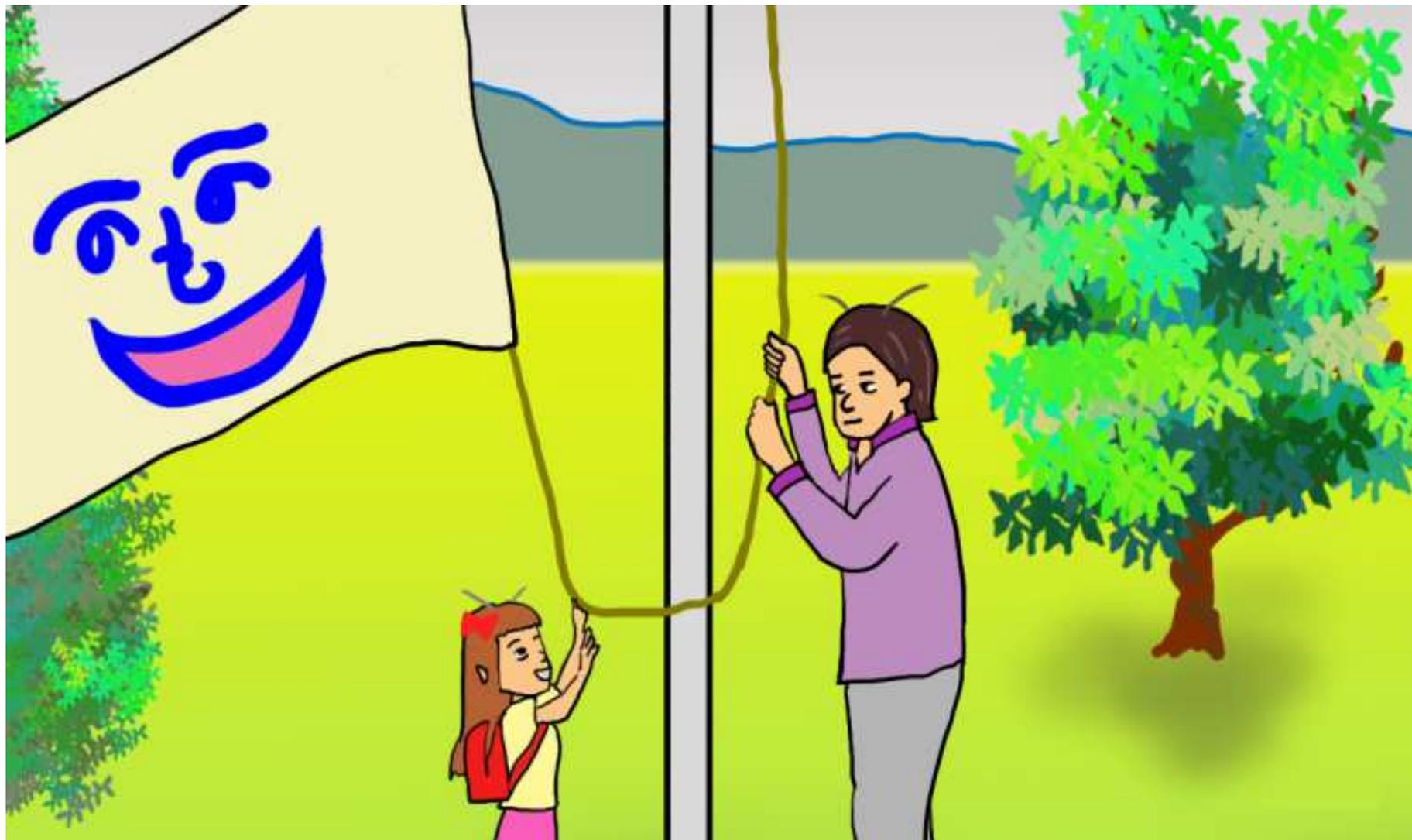


ある日、「愛国者党」が政権を取りました。

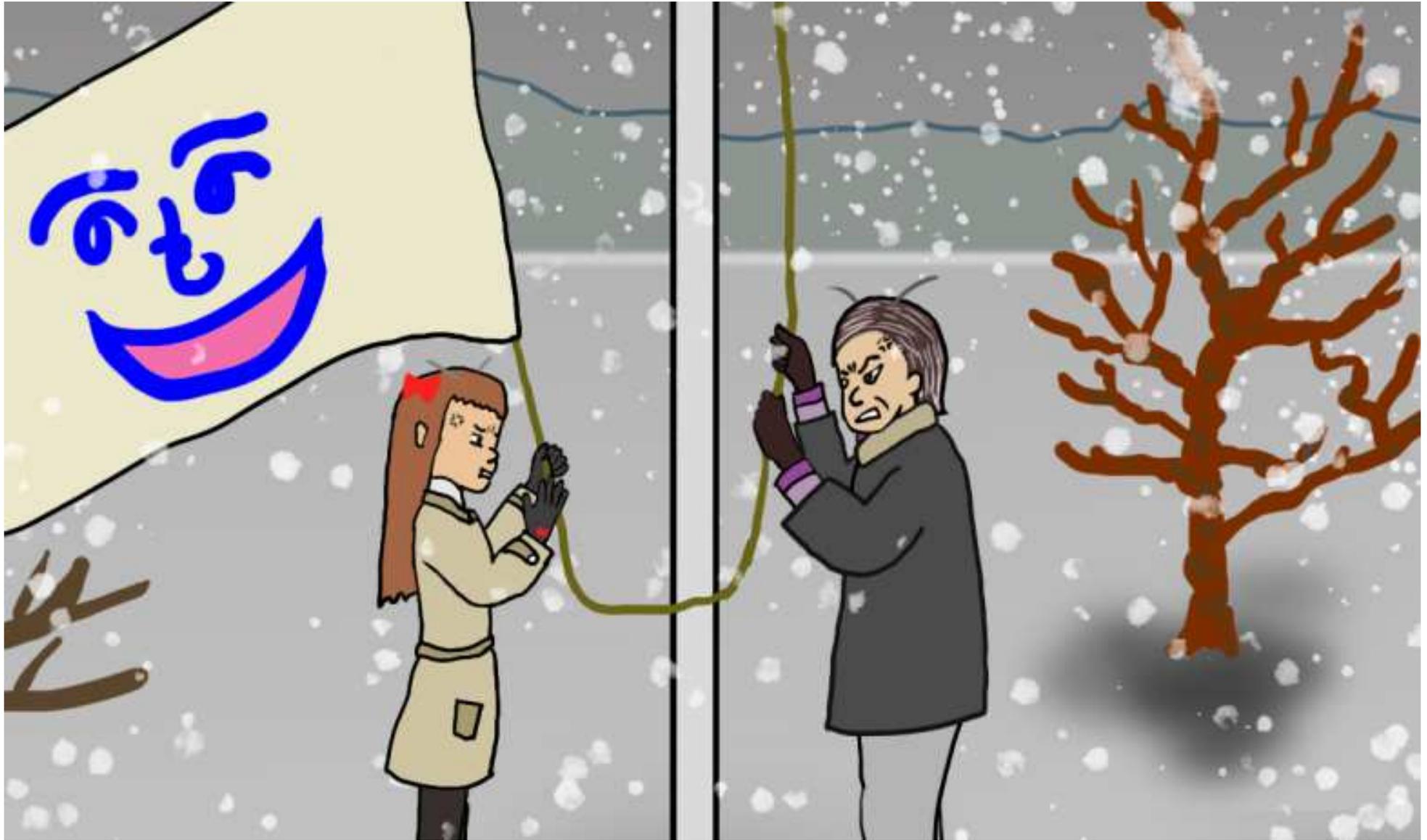


そして「すべての国民は祝祭日に国旗掲揚をすること。違反者は逮捕する」という法律を作りました。

この法律が施行された後も、男性は今までと同様に国旗を掲揚し続けました。

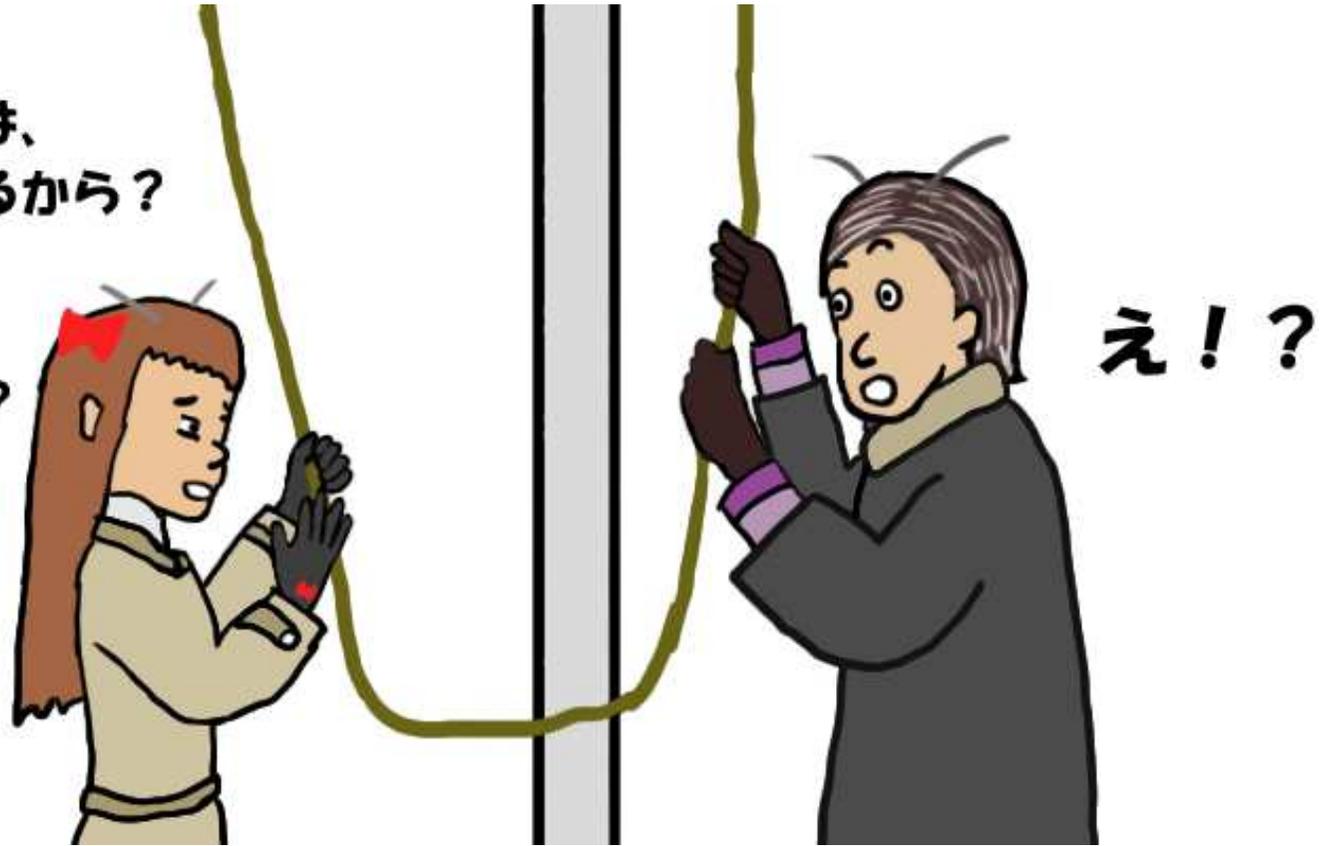






ねえ、お父さん  
国旗を掲揚するのは、  
この国を愛しているから？

それとも逮捕  
されたくないから？



**恐怖は、愛を消します。**

## あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

[www.j15.org](http://www.j15.org)

©Jun Togo 2017